

## 慶尚北道 Global Youth Camp: 慶尚北道をゆく

広島修道大学ひろしま協創高等学校 2年 秋田遼

私はこのプログラムを通して、主体的に学ぶことの楽しさを学びました。私は慶尚北道に訪れる前、韓国にはどのような歴史的背景や文化があるのかに興味を湧き、自分で調べたり、韓国に何度も訪れている父に質問したりしました。過去に発生した戒厳令のことや朝鮮が二国に分裂した経緯など、韓国にまつわる歴史についていろいろ調べました。私は、濃密な経験が自分の人生をより豊かにしてくれると考えています。そのため、これを通して多くの人や場所に出会い訪れることができ、とても有意義な時間を過ごす事ができました。

このプログラムでの私の目標の一つは親密な友だちを作ることだったので、日本を含む計5カ国からの人たちと食事や会話を楽しみ、それを達成することができたことはとても喜ばしかったです。これからもこうした活動に積極的に参加したいと思います。

他にも、歴史的背景のある場所を訪れることで、慶尚北道についての学びを得る機会もありました。その代表的な例として、韓国の宗教文化を象徴する佛国寺への訪問が挙げられます。この場所で多くの人が祈りを捧げ、修行に努めていたのだと想像すると、まるで自分がかつての日常に溶け込んでいるかのような気がして、不思議と心が掻き立てられました。さらに、別の日に訪れた安東民族博物館では当時の人たちが現代とは全く違った生活を営んでいたのだと知り、感銘を受けました。

帰国前最後のプログラムでは各国の人たちの伝統のパフォーマンスなどを鑑賞しました。準備するのが直前になってしまい失敗もありましたが、日本の伝統舞踊であるソーラン節をほかのメンバーとともに舞台上で披露できて、自国の魅力を伝えることの楽しさを肌で感じました。ベストを尽くせるように夜遅くまで話し合っただけを練習した思い出は、私にとって大切な宝物です。

訪れる場所を事前に調べておくことで、実際にそこに到着したときにより深い感動を得られることを実感しました。加えて、英語を通じていろんな国の人が喜びや楽しみを分かち合うことが出来ることの素晴らしさを再確認しました。以前は親しみのなかった慶尚北道を実際に訪れて様々な人と親睦を深める中で、より他者を尊重する国際性を身につけることが出来たと感じています。この経験を通じて私はより一層、世界で起こっている問題を自分事として認識し、今の自分に出来ることを考えようと思いました。したがって、まずその第一歩として、今回私が経験したことを、毎年我が校で開催されている「協創コンテスト」に参加して、発表をしようと思います。そして私の発表を聞いてくれた誰かがこのプログラムに関心を持ち、自分も参加しようと思ってくれたらよいと考えます。そうして一人でも多くの人異なる国の人と関われば、いずれすべての人が笑顔で安心して暮らせる世界を実現できると信じています。